

高野地区 ガイドマップ



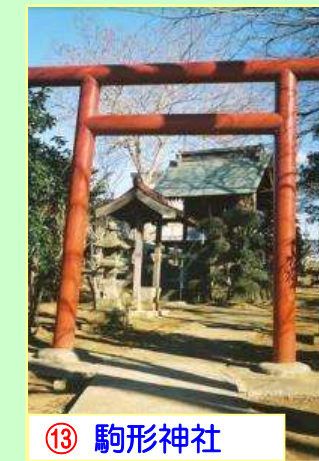
② 鐘のなる木



① かやの木



⑭ 常安院



⑬ 駒形神社



③ 日枝神社



● 天満宮



⑫ 道祖神



⑪ 石神社



④ おばけ石



⑦ 岩田太郎翁紀功碑



⑤ 日光様



⑧ 馬頭観音



● 地藏様



● 雷神様



⑥ 海禅寺
平将門と七人の影武者の墓



⑨ 水位標



● 會田醤油醸造店跡の煙突



● 日露戦没碑



⑩ 浅間神社



● つるべ井戸



● 見猿
言わ猿
聞か猿

高野地区名所めぐり案内

① かやの木

「大したもんだ。いいもんだ。安兵衛どんのもんはいいもんだ。」と人々に言われるほど立派な門があるのが、本宿の小菅さんのお宅の門です。家の後ろには大きなかやの木とけやきがあり、かやの木は、樹齢400年位と云われています。

② 鐘のなる木

鈴塚の大徳さん宅にあります。昭和32年まで、地元消防団の小屋があったところで、火事を知らせるための鐘が今なお残っており、人気を博しています。

③ 日枝神社

鈴塚にあるこの神社は、地元では“妙見様”とも呼ばれています。本体は、大山咋神（おおやまくひのかみ）と云われ、山、川を守り、台地を支配し、万物の成長、発展を助ける神だそうです。昭和の初めに、浅間神社に合祀され、土地の所有者は浅間神社となっています。いつごろ建てられたかは不明ですが、平成15年に地元の方々の協力により、新築されました。

④ おばけ石

昭和50年7月、仲坪にある成田不動明王の石碑に、人の顔が写っているのを近所の小学生が発見しました。以後、噂は広まり、各テレビ局はじめ報道されることにより、心霊写真集にも掲載されるなど、全国的に知るところになりました。

⑤ 日光様

正式には、日光大権現（徳川家康）と云います。文政9年（1826年）に建てられたとされ、本体は徳川家康と言い伝えられ、昔、旧暦の8月17日に行われたおおとうろうは、秋の収穫祭と一緒に行われ、若い人がやぐらを建て、活気に溢れ、近隣の人々も訪れるなど、高野で一番の行事だったとされています。

⑥ 平将門と七人の影武者の墓

海禅寺のなかにあり、江戸時代に造られたと見られる平将門を守る七人の侍の墓と将門の位碑があります。このお寺は、平将門が守谷を京都になぞらえようと、紀州高野山金剛峯寺をモデルにして創建したと伝えられています。

⑦ 岩田太郎翁紀功碑

岩田 太郎（いわた たろう、1871年11月26日（明治4年10月14日）～1936年（昭和11年）5月16日）は、葛飾県相馬郡高野村（現・茨城県守谷市高野）出身の実業家・大日本蚕業研究会講習所設置者。

日本の重要な産業であった生糸の養蚕の発展に努め、大日本蚕業研究会講習所を設置した人物です。岩田家は高野村の名主を務めていた家で、父定吉が1868年（明治元年）より蚕業を始め、太郎は家業を次いで良質な蚕種の開発に努めました。1895年（明治28年）には高野村の農会結成と同時に会長となり、蚕業の開発の成果が出ると全国に普及させるため、1896年（明治29年）に北相馬郡高野村大字高野92番地（現・守谷市高野92番地）に大日本蚕業研究会講習所を設置しました。

⑧ 馬頭観音

台川端にある塔は、文化8年（1811年）に造られたとされ、現在、市内には、12基の馬頭観音が見受けられますが、馬頭観音は、路傍の石仏として、昔から、地蔵や庚申とともに庶民に親しまれてきましたが、江戸時代後期の頃から、馬を始めとした動物にまで慈悲をかける像として拝まれてきました。

⑨ 水位標

台川端にあるこの標は、昭和43年頃、当時の国土交通省が設置したもので、稲戸井調節池に入った水深を測るための目安にするために造られました。

⑩ 浅間神社

利根川を望む根切の高台の景勝地にあります。地元の人から“せんげんさま”と呼ばれ、親しまれています。祭神は木花咲耶姫（静かなことを好む女の神さま）で、大同年間（平安時代）に坂上田村麻呂が創建したと伝えられています。

⑪ 石神神社

乙子にあるこの神社は、享和3年（1803年）に建てられ、祭神は大日々谷維奈尊者です。現在の本殿は、明治23年に建てられ、“子どもがたくさん生まれますように”“おねしょをしませんように”とお願いした人たちが納めた石や木で出来たものが、たくさんあります。

⑫ 道祖神

道祖神（どうそじん、どうそしん）は、路傍の神です。集落の境や村の中心、村内と村外の境界や道の辻、三叉路などに主に石碑や石像の形態で祀られる神で、芭蕉の「奥の細道」では旅に誘う神様として冒頭に登場します。村の守り神、子孫繁栄、近世では旅や交通安全の神として信仰されています。

⑬ 駒形神社

乙子にあるこの神社は、平将門が乗った白馬が祭られているという言い伝えがあります。今でも“産土様”（うぶすなさま）と呼ばれ、乙子の守り神と大事にされています。いつ建てられたかは不明です。

⑭ 常安院

文禄元年（1592年）市内にある長竜寺の第4代住職がこの地（乙子）に本堂を建て、曹洞宗歓喜山常安院と呼ぶようになりました。寺の入り口手前には、死人の苦しみを取り除いてくれる6人のお地蔵さん「六地蔵」がたたずんでいます。

高野地区まちづくり協議会

問い合わせ先：社会福祉協議会 高野支部

TEL：0297-45-0088

平成16年10月1日 作成

令和元年5月1日 更新



あわんとり（どんと焼き） 1月 開催



高野こいのぼりまつり 5月 開催



根切の見晴台（東京スカイツリーも見えます。）